

観点別学習評価、校務支援システム についてのとりくみ経過

高教組は昨年度、観点別学習評価、校務支援システムについてのアンケート調査を行いました。アンケート結果と要請書を昨年3月30日に県教委に手交しました。(資料1)

10月2日、県教委から高教組の要請書に対する回答を受け取りました。(資料2)

11月16日、学校現場で実際に観点別学習評価、校務支援システムを担当する組合員とともに交渉を行っています。(高教組情報No.8 参照)

資料1

2017年3月30日

岩手県教育委員会

教育長 高橋 嘉行 様

子どもたちの主体的で豊かな学びを保障するために 観点別学習評価の廃止等を求める要請書

岩手県高等学校教職員組合
執行委員長 澤瀬 清巳

貴教育委員会におかれましては、日頃から、教職員の労働条件の改善と岩手の教育向上のためにご尽力いただいておりますことに心から敬意を表します。

さて、高教組は、2016年9月に全組合員を対象に「観点別学習評価」と「校務支援システム」に関する課題と問題点をあきらかにするためのアンケート調査を行いました(結果は別紙のとおり)。自由記述で寄せられた延べ1,000件を超える意見の大半は、今回導入された観点別学習評価の方法と校務支援システムに対する批判的・懐疑的な意見でした。

これまで各学校では、子どもたちの実態に合った授業実践と評価の改善を積み重ねてきました。観点別学習評価もこれまでの評価方法に取り入れられており、子どもたちの「良さ」を引き出し、意欲を喚起するために、すでに多くの教職員が各教科の特性に応じて実施しています。

教育の本質を十分に見極めず、教職員の声を聞かずに一方的に全県統一した方法で導入しようとしている評価システムは、子どもたちの主体的な学びを損ない、岩手の高校教育そのものの価値を覆す可能性があります。敢えて評価方法をシステム化し、画一的な基準を設けて実施する必然性はありません。また、外部への説明責任に意識が向き過ぎ、「観点別学習評価のための授業実践」となる傾向も指摘されています。評価にかかわる説明責任は外部に対してではなく、子どもたちに対して負うべきものです。

岩手高教組は、子どもたちの主体的・意欲的で、豊かな学びを保障するために、導入予定の評価方法の廃止と校務支援システムの改善を求め、下記のとおり要請します。